地域懇談会の結果

地域懇談会は，市内 11 会場において８月６日～17 日までの７日間にわたり開催し，延べ 396 人の方々の参加をいただきました。

懇談会では，５人程度の小グループに分かれて，地域福祉に関し，普段感じていることや実践している取組，地域の暮らしの課題，計画に反映させてほしいこと等について意見を交わしました。

どこの地区でも同じように困っていることや，地区ごとの特徴的取組や意見などが活発に出され，地域の皆さんの想いをお伺いできる貴重な機会となりました。

計画策定にあたっては，皆様からのご意見を内容ごとに分類・整理し，それを基に，計画の推進項目と具体的取組を設定しました。

項目ごとの主な意見は次頁のとおりです。

…地域懇談会のようす…

みなさまから
たくさんのご意見を
いただきました。

ご参加いただき
ありがとうございました。

基本目標Ⅰ　地域で福祉を担う人づくり

具体的目標１　地域福祉学習の推進

福祉教育の推進

- 福祉教育を子ども世代に行う。小さい時から郷土愛を育む教育も必要だと思う。
- 小中高を通し。福祉リーダーの育成をするべきである。
- 小・中学校での防災学習を行なっている。
- 教育委員会と連携して学生の福祉活動が必要だ。
- 福祉の勉強会を開いてほしい。

地域全体と子ども・若者との関わりの促進

- 若い世代の地域行事の参加への促しが必要ではなか。
- 地域イベント開催の時，子どもたちの行事を一緒に行っている。
- 子どもへ地域の良いところを話して聞かせる。
- 中学生が地域で過ごせるようにしたい。
- 子どものセーフハウスを作ってほしい！

地域共生社会へ向けた学びの充実

- LGBT への理解が必要である。
- 高齢者，障害者，子どもへの理解。地域の福祉力の底上げの必要がある。
- 地域で様々な内容の学習会を行うことで，お互いの立場や考え方の意見交換ができると思う。

思いやり，支えあいの意識向上と主体的参加の促進

- 汽船が無くなった時の情報交換の場が必要。
- 地域で生きていくには人の支えが必要。助けられる力も必要だと思う。
- 高校生がボランティアとして福祉まつりに協力してくれている。世代間の交流を積極的に図れると良い。
- 災害の時は近所で声がけ。一人がひとりを担当。お年寄りの安全確認。災害時要支援者名簿にこだわらず，近所同士いざという時に助けあえるようにしたい。
- 仕事をしたい障害者にボランティアで教えてくれる人がほしい。

具体的目標２　地域福祉の担い手の確保と育成

担い手の発掘と育成

- 自治会老年部等年長者から様々なことを教わっている。しばりがない自由な活動をしていると新たな仲間がうまれる。
- 自治会に参加している役員が年配。30～50 代も入っていろいろな問題を解決できたらいいが，仕事があって参加できないのも事実だ。
- 自治会役員の負担が大きい。
- 民生委員・児童委員の欠員で，地域の福祉活動に支障がある。
- ボランティアに男性の加入も考えていきたい。

地域行事を通じた人づくり

- 伝統行事（太鼓）で人が繋がる。
- 小学校の運動会のプログラムを子どものいない家庭にも配り，見に来てもらっている。
- 地区のコミュニティセンターの掃除。２班ずつ。毎月１回朝６時～8 時まで行なっている。
- 人と人の接点を多くする機会を設けていくことで，人づくりができると考える。
- 男性に多く参加してもらいたい。

具体的目標３　ボランティア・市民活動団体等の支援

住民やボランティア団体等への支援

- 今ある活動を大切に伝えていく。
- ボランティアクラブの立ち上げ方が分からない。

良い取り組みの発信

- 「“ありがとう”」「ほめる」の見える化が必要である。
- 講座等開催することが多く勉強熱心。公民館だよりの影響も大きい。

基本目標Ⅱ　ふれあい支えあう地域づくり

具体的目標１　支えあう地域コミュニティの構築

困りごとを受け止める体制づくり

- 見守り隊，地域食堂を行なっている。
- 隣組連絡員をつくり，お互いに顔の見えるつながりを目指している。
- 民生委員が一人暮らしや高齢者世帯へヘルプカードを積極的に進めてくれていた。見守っていてもらったという安心感がある。
- 民生委員と自治会のタイアップが必要だが，情報交換が難しい。
- 体調が悪くなって入院まででではなくても，在宅で駆けつけてくれる人がいるといいなと思う。

支えあいのための情報共有と相談・実施体制づくり

- 地区の人が買い物の代行。⇒自分が行くついでに頼まれる。
- 災害時要支援者名簿にこだわらず，近所同士，いざという時に助け合えるようにしたい。
- 高齢者世帯の増加。買い物やゴミだし等の生活支援をどうしていくのか。会報や回覧板を回すのも大変である。
- 子育て応援隊をつくりたい。
- 個人情報が分からないので、転入時の家庭訪問をしている。自治会で情報の蓄積ができてきている。

コミュニティ運営の支援

- 20 年後の自治会のあり方を考えていく時期である。
- コミュニティ活動，コミュニティ施設への財政支援が必要である。
- 自治会活動を周知するために自治会報を作っている。
- 自治会内の問題点の抽出。言いやすい環境を作る。風通しを良くする。
- 助成金の手続きを簡単にしてほしい。

具体的目標２　交流機会の拡大

地域行事等を通じたコミュニティ強化

- 地区のお祭りに子ども育成会も手伝い，地区全体で盛り上がっている。
- 自治会で行う行事に声をかける。記念写真を配ったり良い雰囲気づくりをする。初めて来た人を一人にしない。
- １ケ月に１回程度シニア部としてボランティア，健康づくり，地域交流等が企画され，参加者も多い。
- 一人ひとりが健康であることが地域力にも繋がる。
- 高齢者サロンで高齢者が若者に教えることもあるので，地域行事で地域の伝統を教えあうことも大事である。（伝統や料理など）
- 行事を通して顔が見える交流が出来る。

集いの場の確保とにぎわい創出

- やりたいことで地域を変えていく。
- 自治会館の活用と活発化をどうにかしたい。
- 地区に会館が無い事。集会場所が一番大変である。
- 福祉施設が休みの時，地域に開放し交流の場にしたい。
- 気軽にお茶のみができて意見交換ができれば，これからの人づくりに役立つのではないか。

働き世代を含めた関わりの拡大

- 地区の行事に少しずつ誘いながら人数(参加者)が増えている 。
- 活動を計画しても参加する人が限られている。どのように広げて行くか。
- 地域の復興の遅れによるコミュニティの再構築の遅れと住民人口の減少が課題である。
- 若い人，行事に出ると地域のつながりが強化される。

具体的目標３　安全安心なくらし

災害時の要支援者の支援体制整備

- 防災訓練について，学校の協力もあり地区民・小・中と一緒に出来た。
- 自治会で避難困難者リストを作成した。
- 地域全体が高齢化しており，災害の時にどのように避難等させたらよいのか不安である。
- 地域の防災面で一時避難所を運営するが，住民の手伝いが少ない。

暮らしやすい環境の整備

- 公民館事業等に参加したいが，移動手段がない。
- 病院が無くなった。人は戻って来ているが病院が無く不安である。
- 必要な時に入所できる高齢者施設があるといい。
- 買い物・通院時の交通手段があるといい。

基本目標Ⅲ　住みよい暮らしの仕組みづくり

具体的目標１　地域住民と支援機関及び関係機関の連携・協働

地域での見守り・支援の体制強化による孤立の防止

- 高齢者と障害者のいる世帯の将来が心配だ。
- 外国人に対する支援も必要では。
- 自治会で回番を８月～12 月に実施している。防犯･火の用心･地域見回り
- 保健推進員をしているが，できるだけ地域の方の様子を知っておきたくて配布物は手渡しを心がけている。
- 支援のためには，支援機関と自治会・民生委員との情報の共有が必要だと思う。
- 民生委員の活動はやりがいがあるが，訪問など，時間や経費がかかって大変なところもある。

地域・各機関での相談支援体制の整備

- 「なんでも相談」「健康相談」などが身近でできればいいなと思う。困りごとを吸い上げる仕組みがほしい。
- ゴミ出し，草刈りの手伝い等を通して声がけをしている。
- 買い物や通院等で困っている人への移動支援サービス実施に向けた検討をしている。
- 隣組単位でお互いの見守りを行なっている。１対１の関係で見守りの強化を目指している。
- 地域福祉は誰かがやってくれるものと思っている，特に仕事で携わらなければ無関心。

必要なサービスを利用できるための仕組みの確立

- 介護保険の認定を受けられない時のサービスは？伝える方法は？

共生型サービス等の分野横断的サービスの展開

- 共生型の入所施設を地域で運営する仕組みづくり（モデルケース）も必要では？

居住・就労困難者等への横断的支援

- 40 から 60 代の働いていない方の将来が心配

事業の一体的実施のための多機関・他分野連携

- 各機関や団体が縦割り的でバラバラ。行政・公民館・学校・地域等の横のつながりや連携が必要ではないか。
- 交通手段が問題、乗り合いタクシーや買い物支援があれば良い
- 空き家が増え地域環境が悪化している
- 集会場がほしい!!（誰もが集合できる場所･環境に！）
- 道路・通学路や避難経路の整備が必要

地域の福祉活動を支えるバックアップ体制の整備

- 自治会組織の中に福祉を担う部署を置く
- 市社協の助けがあるので，福祉の活動が続けられている。
- 行政と住民のコミュニケーションが不足。地域をつなぐ役割をしてくれればいいのでは。

具体的目標２　人権尊重と権利擁護

生きることへの包括的な支援の推進

- 引きこもりの人への支援が必要
- 優しくあたたかい地域で，一人ひとりが生きたいように生きることを見守れたらいいと思う。

具体的目標３　福祉サービスの質の向上と市民への情報提供の充実

福祉を支えるひと・もの・ことの充実

- 高齢者サービス利用したくても，高くて利用が出来ない。
- 自宅で受けられる介護サービスの充実を望みます。
- 介護サービスを受けられるまでのスピードアップを。
- 何かあった時，すぐに通報できるシステムがあるといい。
- サービスの質を高めるには，それを支える人を育てることも大切ではないか。
- 事業所や施設でのサービスを充実してほしい。
- 地域での活動を人・物・金で支援する仕組みづくりが必要。

利用者の適切なサービス選択の確保

- いろいろなシステムがあるが，わからない人が多い。
- 実施したことを地域住民に伝える広報活動が大事⇒見える化

その他（基本目標Ⅰ～Ⅲ共通）

その他

- 地域福祉計画，地域福祉活動計画の基本目標の分類見直し（もっと具体的項目へ災害防災等）
- 生活環境に関わることを地域福祉計画，地域福祉活動計画に入れてほしい
- 行政，社協，地域の役割をきちんと明らかにしていく計画にしてほしい
- 住民の声をきちんと計画に反映させてほしい。